

身近になった飛行物体

2019年12月

無人航空機やシステム（UAV、UAS、ドローン）が、様々な目的で最近広く利用可能になっている。レジャー目的だけでなく、産業用目視検査、農業、環境科学、監視、測量、配達などに合法的に広く使用されるようになってきている。

それらの数は現在、模型飛行機と同じほど多くなっている。ドローンを工業用地で使用した場合、機器に衝突して損傷を引き起こすだけでなく、火災、爆発なども懸念されている。最近も、あるプロセス産業において軍用ドローンによる出来事があった。

祭りの催し物の打ち上げ花火やその他の中空花火は、引火性や可燃性の物質を保管し、取り扱っている場所に落ちて、着火源となる可能性がある。ランタン（別名スカイランタン）も、花火の代わりとしてもよく使われ、それらは着火源であるばかりでなく、極めて長い距離を移動可能である。熱気球の操縦士が工場敷地に向かって移動することを避けられず、工場内に緊急着陸した事例もある。（下の写真と2007年4月のビーコンを参照：[Mr. Potato Head](#)（品のないやつ）が降りてきた！）。



知っていますか

- 予想されていないとしても、気球事故は、適切な緊急時対応教育、繰り返し練習、および訓練により、現場職員が緊急事態に対処することができる。
- 機器の損傷や火災の他に、飛行物体は頭上の裸の送電線に衝突し、短絡やそれに起因する事故を引き起こす可能性がある。この様な事故は、よく見かける表面を金属蒸着加工したヘリウム入りのPET製の装飾用の風船でも時々発生している。

あなたにできること

- 現場パトロールに行くときは、上空も確認すること。
- プラントの敷地の上を飛行し安全を脅かす恐れのあるものは必ず報告すること—当然、鳥は別として。
- 花火、スカイランタン、熱気球の季節には特に注意すること。
- 自宅近くに化学プラント、燃料店や同様のものがあるなら、近所で花火やドローンを含む活動の計画がある場合、その危険性について近所の人にアドバイスすること。
- 事業所でドローンを使用する場合、その作業は他の非定常作業と同様に許可作業とする必要がある。

「素晴らしい贈り物は上から来る」-しかし、危険も来ることがある！